

# 〈みずほ〉の公募投資信託（ファンド）の評価の考え方

※以下、当資料では投資信託のことを「ファンド」と表記しています。

〈みずほ〉では、定性、定量の両面からファンドの運用面におけるクオリティを評価しています。定性評価では、主に ①運用会社 ②運用チーム ③運用プロセス等の3点から評価を行います。定量評価では、過去の運用実績の数値を基にパフォーマンス等を評価しています。

パフォーマンス等の定量評価はファンド評価における重要な要素ですが、優れたパフォーマンスを継続させるためには、運用会社の理念と強固なビジネス基盤、高い運用力を持続させるチーム体制、運用の継続性を担保する運用プロセス等が不可欠であるという考えの下で、〈みずほ〉では定性評価についても力を入れています。

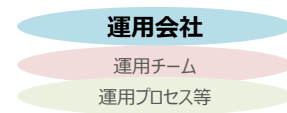
## ＜ファンド評価における重要なポイント＞



ファンド評価については、取扱ファンドの選定時に実施しているほか、取扱開始後も定期的実施（モニタリング）しています。調査結果を踏まえてパフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請する等、お客さまへ提供する商品の質を保つよう努めています。 ※ファンドの選定においては、定量評価で絞り込みを行い、運用状況が良好と考えられるものに対し定性評価を行っています。モニタリングにおいては、定量評価で一定の基準に該当したものに対し定性評価を行っています。

## 定性評価について ①運用会社の評価ポイント

➤ 経営方針やビジネス状況、財務状況、人事制度等を確認することで、パフォーマンスの継続性をサポートできる体制かどうかを評価します。



### 運用会社の特徴をつかむ

#### 運用会社

＜運用会社を評価する主なポイント＞

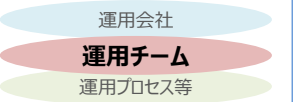
- ① 経営方針・ビジネス状況**  
運用力を強化するための施策を十分に講じているか？ など
- ② 財務状況**  
会社の安定性や収益性に問題がないか？ など
- ③ 人事制度**  
優秀な人材を獲得・維持できる仕組みであるか？ など

会社の特徴を把握し、強み・弱みを評価

- ＜例：ポジティブな評価＞**
  - 安定した収益と運用資産残高を有する
  - パフォーマンスを第一に考え、運用者を積極的にサポートしている
- ＜例：ネガティブな評価＞**
  - × 運用に関するインフラ整備等の運用力強化に対する投資に消極的
  - × 運用実績を考慮しない評価制度

## 定性評価について ②運用チームの評価ポイント

➤ 良好なパフォーマンスにつながるチーム体制、チームカルチャー、チーム内のコミュニケーションが適切なものになっているかを確認・評価します。



### 運用チームの特徴をつかむ

#### 運用チーム

＜運用チームを評価する主なポイント＞

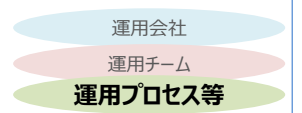
- ① チーム体制**  
リーダーはどのような人物か？ チームメンバーの経験年数は？ など
- ② チームカルチャー**  
チームが大事にしている価値観は何か？ など
- ③ コミュニケーション**  
運用プロセス等の向上を企図した活発なディスカッションがなされているか？ など

チームの特徴を把握し、強み・弱みを評価

- ＜例：ポジティブな評価＞**
  - 経験豊富なメンバーが揃っている
  - チームとしての実績が豊富
  - 特定のメンバーに依存しない体制
- ＜例：ネガティブな評価＞**
  - × チームリーダーがパフォーマンス改善への意識に乏しい
  - × チームの離職率が高い
  - × メンバーの低いモチベーション

## 定性評価について ③運用プロセス等の評価ポイント

➤ どのような投資哲学や運用目標のもと運用しているかや、運用プロセスに優位性があるかを確認・評価します。



### 運用プロセス等の特徴をつかむ

#### 運用プロセス等

＜運用プロセス等を評価する主なポイント＞

- ① 投資哲学**  
どのような信念に基づいてリターンを出そうとしているか？（プロセスの根幹）
- ② 運用目標**  
どのような目標をめざして運用しているか？（パフォーマンスの良し悪しを判断する基準）
- ③ プロセスの優位性**  
一貫性・継続性のある運用プロセスか？ など

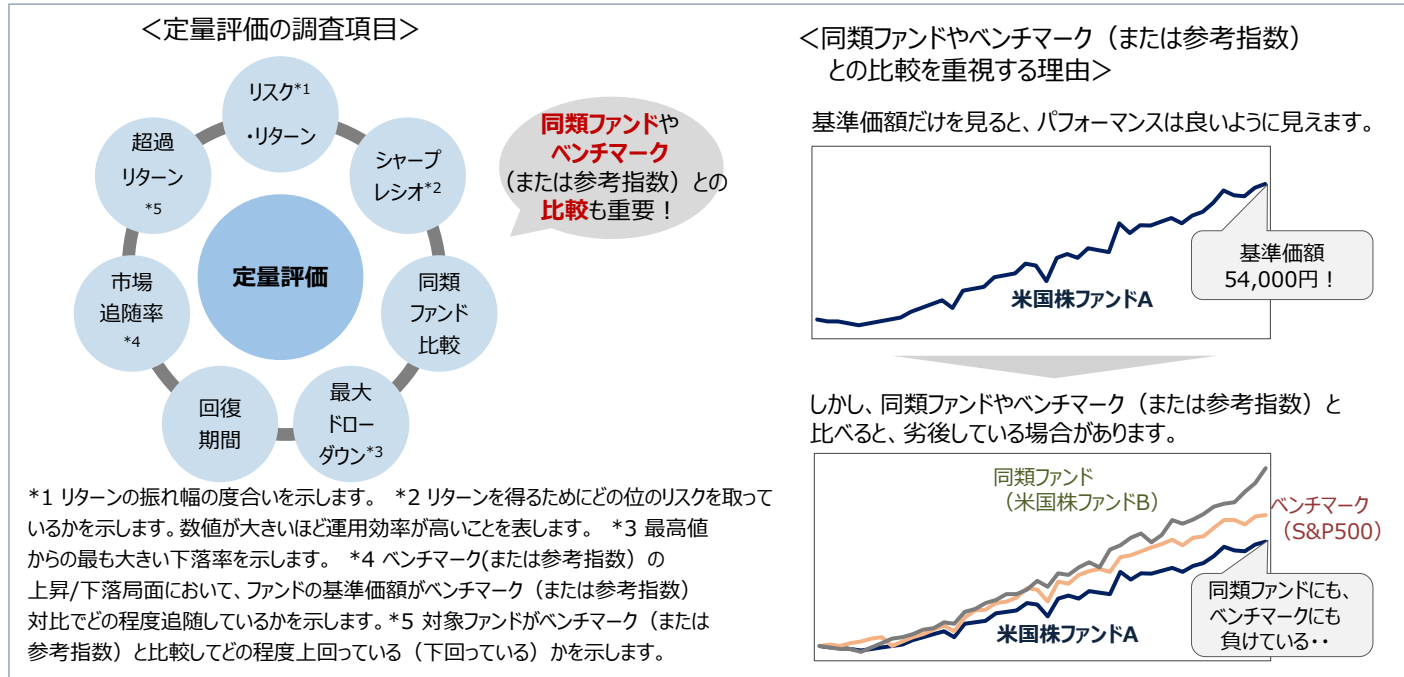
プロセスの特徴を把握し、強み・弱みを評価

- ＜例：ポジティブな評価＞**
  - 長期にわたり投資哲学を徹底している
  - 明確かつ規律あるプロセス
  - 独自の分析で銘柄発掘に優位性がある
- ＜例：ネガティブな評価＞**
  - × 明確な運用目標、運用哲学を持っていない
  - × 局面によって場当たりに行動が変化する
  - × 継続的な改善が行われていない

※定性評価は、上記の各評価項目を基に、総合的に判断しています。上記の例は一部を抜粋したものであり、そのすべてを説明しているものではありません。 ※上記は〈みずほ〉のファンド評価の考え方を示したものであり、すべての取扱ファンドに対して上記の評価を行っているものではありません。

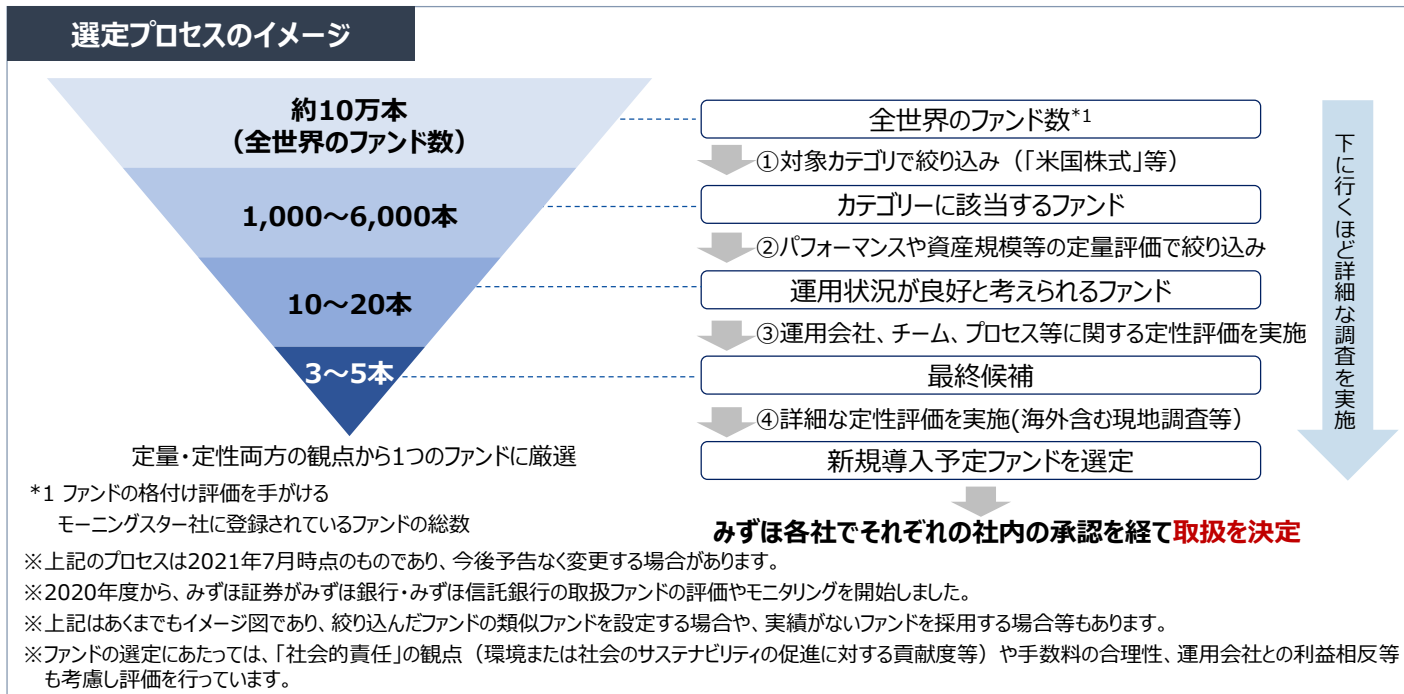
## 定量評価について

- ▶ 定量評価については、以下の「定量評価の調査項目」に示した項目を主に確認しています。
- ▶ 確認にあたっては、同類ファンドやベンチマーク（または参考指数）対比のパフォーマンスを重視しており、その市場の平均よりも優れた運用か、他のファンドより優位性があるかを評価することができます。



## （ご参考）〈みずほ〉のファンド選定

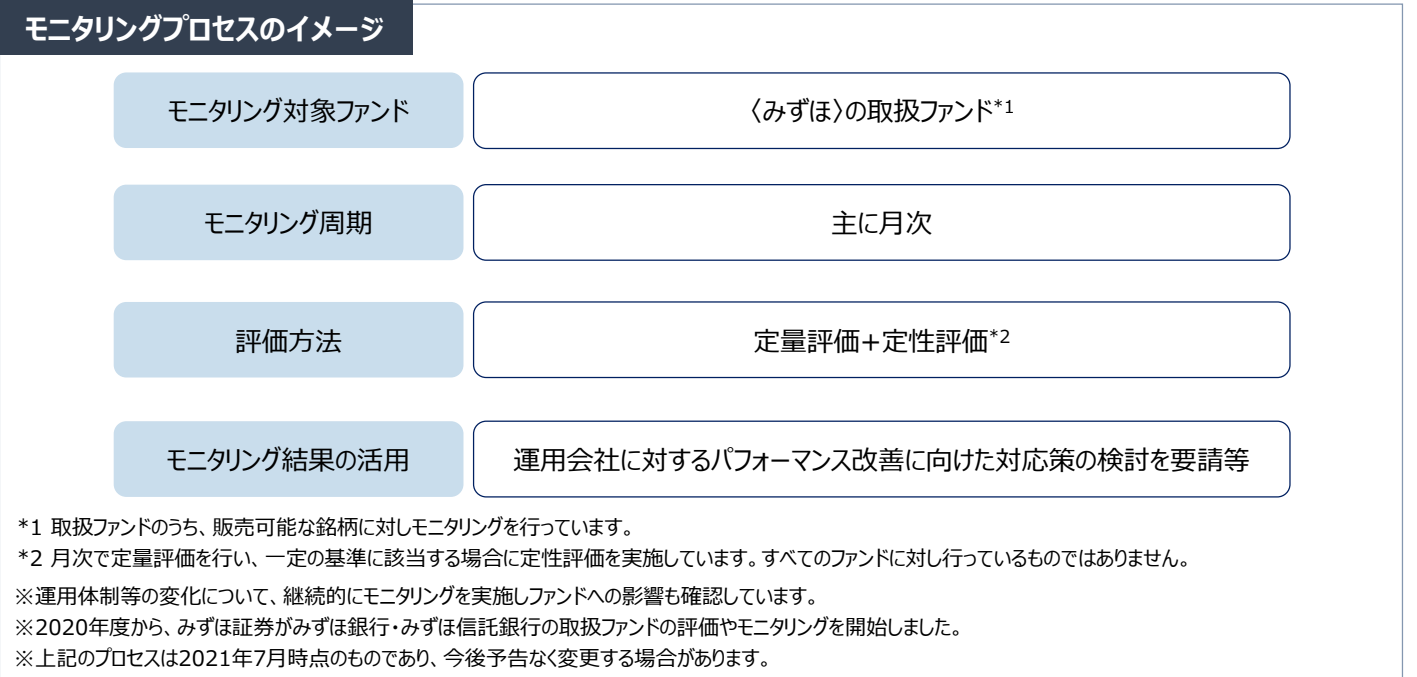
- ▶ 〈みずほ〉では、全世界の約10万本のファンドから、対象カテゴリ内での定量評価（パフォーマンス分析）や定性評価により、お客さまにお勧めできると考えられるファンドを厳選しています。
- ▶ ファンドの新規取扱においては、厳正なプロセスに基づき採用を決定しています。



※上記は〈みずほ〉のファンド評価の考え方を示したものであり、すべての取扱ファンドに対して上記の評価を行っているものではありません。

## （ご参考）〈みずほ〉のファンドモニタリング

- ▶ 〈みずほ〉では、取扱ファンドが、引き続きお客さまの資産形成に資する商品かどうかを継続的に検証しています。
- ▶ 調査結果を踏まえて、パフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請する等、お客さまへ提供する商品の質を保つよう努めています。



## 投資信託にかかるリスクと費用

### 【「投資信託」のリスクについて】

- 投資信託はその信託財産に組入れられた株式・債券・REITなどの価格変動やその発行者に係る信用状況などの変化、金利の変動、為替相場の変動等により、基準価額（外国籍投資信託の場合は1口あたり純資産価格）が下落し、損失を被り、元本割れを生じる可能性があります。外貨建ての投資信託については、上記に加え、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替相場の変動により円換算ベースでは投資した元本を割り込む場合があります。

### 【投資信託にかかる費用について】

当行取り扱いの投資信託のご購入にあたっては、ご購入金額に対して最大3.30%（税込）の購入時手数料をご負担いただきます。また、換金時に直接ご負担いただく費用として、換金時の基準価額に対して最大0.3%の信託財産留保額をご負担いただく場合があります。投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用として、運用管理費用（信託報酬：信託財産の純資産総額に対して最大2.15%（税込・年率））およびその他の費用をご負担いただきます。その他の費用は定率でないもの、定時に見直されるもの、売買条件等に応じて異なるものがあるため、当該費用および合計額等を表示することができません。なお、お客さまにご負担いただく手数料等の合計額（上限額等を含む）については、ご購入金額や保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

### 【ご注意くださいこと】

- 投資信託は預金等ではなく、元本および利益の保証はありません。
- 投資信託は預金保険・保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 当行で取り扱っている投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 投資信託の運用による利益および損失は、投資信託をご購入のお客さまに帰属します。
- 投資信託は当行が運用している商品ではありません。
- 投資信託は当行が委託会社から委託を受けて販売している商品です。
- 一部の投資信託には、信託期間中に中途換金ができないものや、換金可能日時があらかじめ制限されているものがあります。

### 〈お申し込みにあたってのご留意事項〉

- 投資信託は、海外での休日等により、取引の受付を制限する場合があります。
- お申し込みにあたっては、原則ご本人さまのお手続きとさせていただきます。
- 投資信託のご購入の際には、当行よりあらかじめまたは同時に投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面、商品基本資料をお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、お客さまのご判断でお選びください。投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面、商品基本資料は当行本支店（除くトラストラウンジ等）にご用意しております。
- 本ページはみずほ信託銀行が作成したものです。